

C.COM

広島 の 生協

平和とより良き生活のために

NOV.2013 VOL.43

広島県生活協同組合連合会
発行 2013年11月25日



左から日本生協連 伊藤本部長、岸田外務大臣、
広島県生協連 岡村会長理事、日本生協連 浅田会長
(外務大臣応接室にて)

第42回 広島県生協大会	1-4
・式典・広島県知事表彰「厚生大臣表彰」	
・会員生協実践活動報告	
・記念講演「21世紀の地域分散ネットワーク社会を 創ろう～地域経済を支えるエネルギー・社会保障～」	
事務局・会員生協だより	
・岸田外務大臣と懇談	5
・2015NPT 再検討会議に向けて	
・地域活性化研究会	6
・フードフェスティバルで表彰・広島県へ要請	7
・広大生協霞キャンパス	8
因島・竹原生協まつり	9
・消費者ネット・理事会報告	10
・「国際平和デー」に参加！	
『日々のことから』	11
それぞれの進水式	
中国新聞社論説委員会室副主幹 佐田尾 信作	

地域コミュニティの 再生をめざして

第42回 広島県生協大会



第42回広島県生協大会の様子

誰もが安心して くらせる持続可能な



岡村会長理事

地域コミュニティの 再生を目指して——

た。ことを報告し、あいさつしました。

誰が安心してくらせる持続可能な地域の中で自給する仕組みを作ることを報告し、あいさつしました。

問題の大きな使命だと強調しました。その中で、生協連合会の果たすべき役割、昨年の国際共同組合年に策定した「2020年ビジョン」に触れ、地域循環型社会経済システムを目指し、「ありたい姿」「誰もが安心して暮らせる持続可能な地域コミュニティの再生」、もともと根源的な食料・エネルギー・ケアを地域の中で自給する仕組みを作ることを報告し、あいさつしました。

平成25年10月24日（木）、第42回『広島県生協大会』が広島市中区サテライトキャンパスひろしま大講堂（広島県民文化センター内）にて開催されました。午前1時から始まった生協大会は、主催者を代表して岡村信秀会長理事が挨拶をしました。

岡村会長は、172名の参加者の出席に感謝するとともに、グローバル化による市場原理と効率主義の浸透、人と人との結びつきが希薄化し、貧困と格差の拡大、地域経済の疲弊といった昨今の社会情勢と諸問題を取りあげました。また、世界的な人口増加と気候変動による食料危機や、自然災害の増加。さらに、未だ問題解決にはほど遠い東日本大震災と原発事故の被害について触れ、その上で、私たちの身の回りに起こっている諸問題を解決することが、今の私達の大きな使命だと強調しました。その中で、生協連合会の果たすべき役割、昨年の国際共同組合年に策定した「2020年ビジョン」に触れ、地域循環型社会経済システムを目指し、「ありたい姿」「誰もが安心して暮らせる持続可能な地域コミュニティの再生」、もともと根源的な食料・エネルギー・ケアを地域の中で自給する仕組みを作ることを報告し、あいさつしました。

第42回 広島県生協大会



挨拶する広島県農業協同組合中央会小田常務理事



挨拶する広島市西藤副市長



来賓を代表して挨拶をする広島県城納副知事

来賓代表3名の挨拶に続いて、今日ご臨席の来賓、山下三郎広島県社会福祉協議会会長、湯浅敏郎広島平和文化センター常務理事、中原律子広島県消費者団体連絡協議会会長、山崎若水日本生活協同組合連合会中国地連事務局長の4名が司会者から紹介され、広島県生協大会式典は滞りなく終了しました。

ご来賓挨拶の最後は、広島県農業協同組合中央会小田政治常務理事が祝辞を述べました。小田常務理事は、食生活や食料問題に触れ、またTPP問題を取り上げ、協同組合間の連携強化を強調して挨拶を終えられました。

続いて、広島市の西藤公司副市長が市長の言葉を代読しました。西藤副市長は、生協の平和に対する取り組み、市民の生活を守るために生協が果たしている役割についてふれ、感謝の意を述べられました。

広島県生協連合会岡村会長理事の挨拶に続いて、ご来賓の方々に祝辞をいただきました。広島県からは城納一昭副知事が祝辞を述べ、城納副知事は、今日の社会状況にふれ、そこで生協が消費者の社会生活を守るために大きく貢献していることを話されました。



広島県知事表彰・厚生労働大臣表彰



(下) 城納副知事より表彰を受ける福山医療生協乃美専務理事 (上) 受賞を記念して、右から岡野理事長、乃美専務理事、城納副知事、盛谷専務理事、横山専務理事

広島県知事表彰

生協法制定65周年を記念しての県知事表彰

第42回広島県生協大会式典に続いて、長年の活動と功績をたたえて広島県知事表彰が行われました。

生協法制定65周年を記念して広島県知事表彰の栄誉に預かったのは、組合表彰は福山医療生活協同組合、個人表彰は4名が表彰されました。

【組合表彰】

福山医療生活協同組合

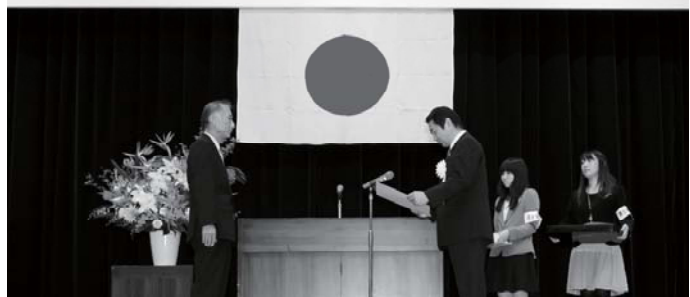
【個人表彰】

岡野龍広(百立造船因島生活協同組合理事長)
盛谷博文(広島中央保健生活協同組合専務理事)
横山弘成(生活協同組合ひろしま専務理事)
宗本千城(生活協同組合ひろしま専務理事)

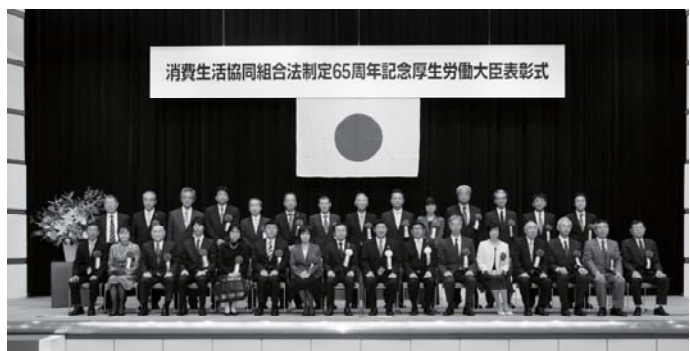


厚生労働大臣表彰

消費生活協同組合法制定65周年記念厚生労働大臣表彰式



佐藤厚生労働副大臣より表彰を受ける広島学校生協研本理事長



10月24日、厚生労働省(東京都千代田区霞ヶ関)において、消費者生活協同組合(連合会)等に対する消費生活協同組合法制定65周年記念厚生労働大臣表彰式が行われました。

この表彰は、厚生労働省が5年に一度、「法の理念にのっとり、健全な事業運営を行い、他の模範と認められる消費生活協同組合及び消費生活協同組合連合会、並びに組合役員に対し厚生労働大臣表彰を行い、その功績をたたえ労苦に報いるとともに、併せて組合の健全な発展に

寄与することを目的」として実施しています。

今年は、全国で27生活協同組合と25個人が表彰を受け、広島県の生協から、組合表彰は広島県学校生活協同組合(研本正明理事長)、個人表彰は岡村信秀(広島県生協連会長理事)が受賞を受賞した。

受賞した27組合を代表して、広島県学校生活協同組合の研本正明理事長が、佐藤茂樹厚生労働副大臣より表彰状を授与されました。

記念講演・実践活動報告



金子勝慶応義塾大学教授



エネルギーシュにお話しされました



記念講演の様子

21世紀の地域分散ネットワーク社会を創ろう

「地域経済を支えるエネルギー・社会保障」

金子勝 慶応義塾大学教授

今年の広島県生協大会の記念講演は、金子勝慶応義塾大学教授。

国際状況の分析から始まりました。

「地域分散型ネットワーク社会を創ろう」と題した金子教授の講演は、今日の社会状況と

自分を、「辛口ご意見番」と称する金子教授の歯に衣を着せぬ話の内容は、「株価と内閣支持率の連動は何故生じるか」と

いった内容からスタート。今日の経済状況を「浮かれている場合ではない」とクギをさします。そして、株価動向と内閣支持率について、国際会計基準と企業決算、無責任体制と不良資産隠しについて、その舞台裏を説明します。また、金融市場と日本株式市場の変化、外国人投資家の比重の増大について説明し、100年に一度の経済危機と米国の「衰退」という将来的不安が迫っていることを強調。また、日本全体が大きな問題に直面しているTPPについてもその実態について説明し、日米合意の内容は、アメリカの譲歩は望めず、日本が譲るばかりだと紹介します。さらに、そうした危機迫る今日の日本の状況を打破するには、新しい産業構造と社会システムの転換が必要だということを提唱します。そして、それを実現するには、各地域の生協が核となって構築する必要がありますが、金子教授は結論づけ、これからを期待して講演を終えました。

記念講演

実践活動報告

広島共立病院 新病院建設

広島医療生活協同組合 花田俊哉常務理事

第42回広島県生協大会の「会員生協実践活動報告」は、広島医療生活協同組合です。

「広島共立病院 新病院建設」と題して、安佐南区（現病院所在地）の新病院建設について、花田俊哉常務理事から報告があ

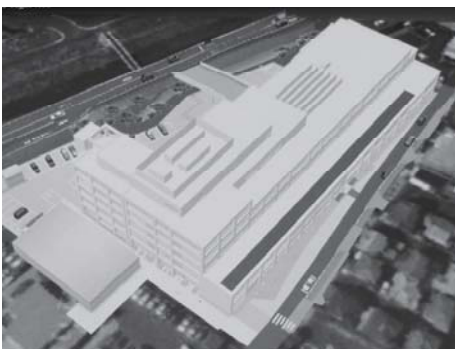
りました。花田常務理事は、多くのデータや写真映像をまじえて、病院の理念、建設の意図、現在進行中の工事状況を細かく紹介しながら、新病院が地域に果たす役割と抱負を述べました。



(上) 病院建設工事状況 (下) 新病院の完成予想模型



(上) 説明する花田常務理事 (下) 現広島共立病院空撮写真



岸田外務大臣と懇談・2015NPT 再検討会議検討会

岸田外務大臣と懇談

9月20日、外務省外務大臣室

において、岸田文雄外務大臣と日本生協連浅田克己会長、広島県生協連岡村信秀会長理事らが、県内生協の活動報告と平和についての意見交換を中心に懇談しました。

この間、岸田外務大臣には、遺伝子組み換え食品問題、食品衛生法の抜本改正、食品基本法の制定、消費者政策、消費者基本法の制定、生協法の改正など、生協に対して積極的なご支援を頂き、浅田克己会長からお礼を

述べました。

広島県生協連は、日本生協連とピースアクション・ヒロシマを軸に、平和の取り組みで連携を重ねてきました。広島県内では、広島県被団協や広島YMCAなど6つの市民団体が構成する実行委員会が、「戦争も核兵器もない平和な世界を市民の集い」を3回にわたって開催してきました。そのアピール文を紹介し、「核不使用に関する共同声明」への不参加に対して再考をお願いしました。この時、

すでに岸田文雄大臣は「賛同する方向で調整を進めている」という返答をいただきました。また、今後は、次世代への継承が重要だという意見で一致し、広島での「子どもたちによる子どもたちへの継承」の取り組みを紹介しました。これについても、岸田文雄大臣からは共感と賛同をいただきました。

広島からの訪問者ということもあるのか、外務省から、いつも以上に同席者が多く、丁寧に対応いただき、終始なごやかな雰囲気でした。岸田文雄外務大臣の、益々のご活躍をお祈りいたします。



外務大臣応接室にて懇談の様子



左から日本生協連 伊藤本部長、岸田外務大臣、広島県生協連 岡村会長理事、日本生協連 浅田会（外務大臣応接室にて）

2015NPT再検討会議に向けた取り組み検討会



広島平和文化センター 湯浅常務



検討会の様子

日本生協連と広島県生協連の呼びかけで、10月15日、「2015年NPT再検討会議に向けた取り組み検討会」が全国から12生協・県連が出席し、広島県生協連で開かれました。

検討会では、広島平和文化センター湯浅敏郎常務理事より、「核不拡散条約（NPT）」や「核兵器禁止条約（NWC）」、「核兵器の非人道性に関する共同声明」、「平和首長会議がかけられる2020ビジョン」など、これまでの取り組み経緯の説明と、生協への期待を込めた学習講演をいただきました。その後、広島県生協連、長崎県生協連から

行政や県内諸団体との取り組みなどについて報告し、各生協での取り組み状況と、今後の取り組みについて意見交換をおこないました。

2015年に向けて2014年が大切なこと、思想・信条を取っ払って、相手を知ることを含めて、ネットワーキングが大切なこと、取り組みの意義について学習すること等を確認し、広島、長崎の生協が全国の生協に呼びかけ、本日から参加した生協が中心となって、全国の生協の核廃絶の取り組みが活発に展開されるように、取り組みを進めていきます。

地域活性化研究会

広島県生協連 地域活性化研究会



第1回 地域活性化研究会の様子



佐々木准教授（左）と丸山代表（右）



国本佐伯区長

広島県生協連では、地域活性化策についてあらゆる角度から研究調査する機関として、行政機関・学識者・県生協連理事等を構成メンバーとした「地域活性化研究会」を設置し、研究を始めました。

地域の現状に目を向けると、高齢化・少子化とともに地域で支え合いやコミュニティが減退し、組合員の暮らしに関する食の問題や医療・介護問題、そし

て地域コミュニティなどの問題が日常生活課題化し、孤独化・孤立化が社会的な課題となつていきます。また、住み慣れた場所ですら暮らしたいという思いとは裏腹に、地域雇用が減速する中で人口の流動性が激しさを増し、地域の環境保全・伝統文化が失われつつあります。

そのような中で、県内の各生協では、「地域と共に」という方針を掲げていますが、その実行は十分とは言えません。

研究会では、県内外における福祉事業領域のモデルを研究し、情報交流・先進事例共有を進め、良質な共生社会づくりにむけた会員生協の指針作りや、地域を焦点化した住民サービスおよび地域コミュニティへの関与について、生協での取り組みモデルを研究していきます。

第1回地域活性化研究会は、9月27日（金）に開催しました。はじめに構成メンバーの紹介があり、高田専務理事より研究会の設置目的と問題意識、シナリオ提起について説明を行いました。続いて日本生協連福祉事務局の尾

崎氏より、生協の地域貢献活動の事例紹介を報告した後、フリートークキングで、意見を出し合い、問題意識を共有化しました。

第2回地域活性化研究会では、安藤周治氏（NPO法人ひろしまね理事長、NPO法人ひろしまNPOセンター代表理事）を講師にお招きし、

「この四十三年、中国路江の川流域で」「もう一つの役場」構想の提案「持続可能な地域の創造を」というテーマで、ご講演をいただき、その後、講演に関連する意見交流を行いました。今後の予定として、先進事例視察（島根県隠岐郡海士町）を行い、研究をさらにすすめます。

□構成メンバー

氏 名	所 属	役 職
国本 善平	広島市	佐伯区長
佐田尾 信作	中国新聞社	論説委員室 副主幹
佐々木 緑	広島修道大学	准教授
丸山 法子	リエゾン地域福祉研究所	代表
尾崎 靖宏	日本生協連	福祉事務局
本浦 孝典	広島医療生協	福祉部長
徳永 裕明	生協ひろしま	総合企画部統括部長
岡崎 晃	生協ひろしま	福祉事業部統括部長
高田 公喜	広島県生協連	専務理事
盛谷 博文	広島県生協連（広島中央保健生協）	常務理事（専務理事）
上田 久子	広島県生協連（生協ひろしま）	理事（理事）
乃美 康志	広島県生協連（福山医療生協）	理事（専務理事）
福島 守（事務局）	広島県生協連	事務局長

広島県との懇談・広島フードフェスティバル表彰式

広島県へ2014年度に向けた要請を行いました。

広島県生協連では、毎年9月に広島県（環境県民局）に対して要請を行っています。

今年も、県内の協同組合と連携して策定した4つの分野（食の分野・環境エネルギー分野・地域福祉医療介護分野・平和分野）で取り組むアクションプランを加速させるために、2014年度（平成26年度）に向けた具体的な要請を9月4日に県庁環境県民局長室にて行い

ました。

広島県からは、中山環境県民局長、川上県民生活部長、消費生活課山根課長、環境政策課山中課長、高齢者支援課若林課長、地域政策局平和推進プロジェクト・チーム中島担当課長、消費生活課川村専門員、片上主任が出席、広島県生協連からは、岡村会長理事、高田専務理事、難波常務理事、馬場常務理事、盛谷常務理事、岡野常務理事、横



中山環境県民局長と岡村会長理事（右）要請文の受け渡し



懇談のようす

山常務理事、福島事務局長が出席しました。
はじめに、広島県生協連岡村会長理事より中山環境県民局長へ要請文を受け渡し、続いて岡村会長理事より挨拶があり、高田専務理事より4つの分野、10項目にわたって要請の趣旨説明を行いました。
次に、中山環境県民局長より挨拶をいただき、続いて要請項目について各課長から回答があり、その後懇談を行いました。各課長からは、生協の活動に対する理解と協力への感謝、今後の取組への協力依頼等がありました。

優秀児童を県生協連が表彰！

10月27日、今年も大勢の来場者を見た「ひろしまフードフェスティバル」。広島県生協連は、フェスティバルの『つくってみようよ！自分の朝ごはん』というイベントに協賛企業として参加しました。

「こども未来づくり・広島応援隊」という団体が主催するこの催し、県下の小学生を対象に、自分で朝ごはんを作り、そのできばえを競うというもの。催しは、フードフェスティバル開催前にあらかじめコンテストを行い、その成果をここフードフェスティバルステージで表彰するというものです。今回の表彰では、小学生20名、17組が表彰されました。



表彰状を授与

広島県生協連同組合連合会も、この表彰式に福島事務局長が参加し、「生協賞」をフェスティバルメイン会場のステージ上で、受賞した小学生に、賞状、記念盾、そして生協商品の詰め合わせを賞品として授与し、その功績をたたえました。



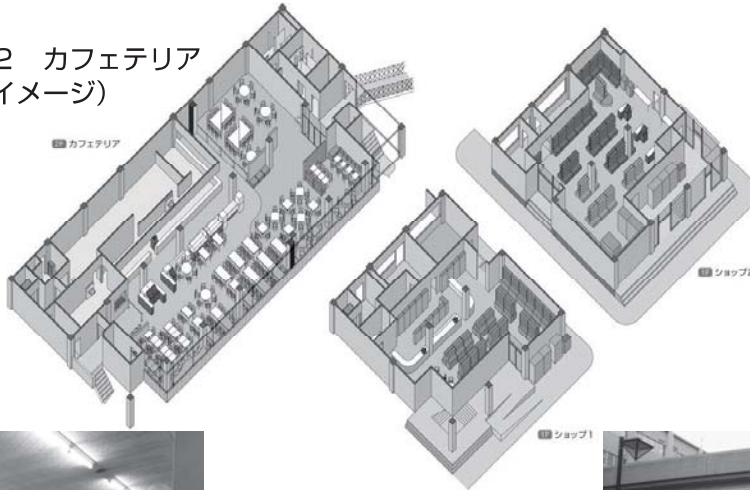
受賞した岡崎あすかさん（小学校2年生）



受賞作品『ねばねば納豆ごはん・味噌汁・冷奴・トマト』

広大生協霞キャンパス

ショップ1・2 カフェテリア
アイソメ図（イメージ）



食堂ホールの昼休憩時間の様子



ショップの昼休憩時間の様子



工事前の霞会館（前面）

広島大学霞会館の改修工事と店舗リニューアルについて

広島大学消費生活協同組合 専務理事 吉山功一

広島大学の概要

- 3つのキャンパス（東広島、霞、東千田）に11学部、11研究科、1研究所、大学病院並びに11の附属学校園を有する中国四国地方最大の国立大学
- 学生数約15,300人（学部生約11,000人、大学院生約4,300人、教員数約1,700人、職員数約1,600人）

広島大学生協の概要

- 1971年設立
- 組合員数 約23,000人
- 供給高 約31億円、出資金約3億円
- 3つのキャンパスにショップ（売店）8店舗、食堂等（カフェテリア食堂、喫茶、レストラン）10店舗、住生活事業3店舗を展開

霞キャンパスの概要

霞キャンパスは医学部・歯学部・薬学部、大学院医歯薬保健学総合研究科と大学病院、研究所（原爆放射線医科学研究所）が揃う日本でも数少ない医療系総合キャンパスです。学生・教職員合わせて約4,000人が勉強研究に励み医療活動に従事しています。

霞会館は1981年に造られたキャンパス唯一の学生教職

員用の福利厚生施設で、1階にショップ、2階に食堂があります。

改修工事と店舗リニューアルに至る経緯

前述のように建設から30年以上が経過し、建物は老朽化しています。この30年の間には学科の新設等もあり学内人口が増えています。食料ホールは面積は増えておらず、近年は昼休憩時の混雑が激しくなっていました。短い休憩時間で昼食を済ませないといけないため、食堂に並ぶのを避けてショップでパンやおにぎり等を買って教室で食べる学生が増えていました。

こうした中、大学側から「耐震強化工事に関連して建物を改装する計画を持つ」と考えているが、生協からも提案をしてほしい」という要請があり、これを受け2011年12月からプロジェクトを立ち上げ検討を開始、2012年3月に「霞会館リニューアル提案書」をまとめました。

学生へのヒアリングでは様々な不満や要望が出されました。特徴的だったのは、混雑への不満と解消の要望に加えて、「キャン

パス内で自習やグループ学習ができるスペースが少ない」とや「二息つける憩いの場がない」ということでした。

そうした声に応えようと、提案では食堂ホールを「快適な食事の場」とすることはもちろん、「学習やイベント等に使える多目的スペース」と「憩いの場」を実現することを目指しました。

生協からの提案書もふまえての検討が大学内で進み、今年10月着工、来春竣工の工事が今年3月に決まりました。

決定した計画では懸案だった店舗・食堂ホールの狭さを改善するため、建物南側に増築増床することになりました。これにより食堂ホールは座席数250席から300席に増やすことが可能となります。ホール内をいくつかのパーティションで区切ることで多目的スペースの創出も実現できます。

10月から工事が始まりました。来春までの半年間は仮設店舗での営業ということで組合員にご迷惑をお掛けしていますが、新しい霞会館は最新の設備と充実した商品サービスをもって喜んでいただけると確信しています。

因島生協・竹原生協 生協まつり



協同組合まつりの入口付近



フットサル生協 CUP

10月27日 因島 協同組合まつり

1977年「組合員が組合員を呼び合う大きな連帯の場」島内の各種団体と連携を深め、生協の活動が広く市民運動となるよう」を目的に第1回「生協まつり」を開催しました。

2007年に名称を「協同組合まつり」に変更し、漁協、各協同組合の協力をいただき、毎年10月の最終日曜日に大浜アムネティー公園で開催して



おいしいたこ焼き、焼けたよ！



たくさんの来場者でにぎわいました

います。

本年度は、「台風27号」週末に接近！の予報。開催を危ぶまれた10月27日（日）の「2013協同組合まつり」（主催：日立造船因島生協、共催：因島市漁協、協賛：JAおのみち）は絶好の秋晴れの下、約5000人の組合員さんが来場されました。

台風の影響で漁が無く因島漁協さんの出店は中止となりましたが、当日は、天ぷらうどん・焼そば・たこ焼き等、家庭会組合員さんによる模擬店、納入業者さんによる物品の販売、お楽しみ抽選会、マグロの解体、地元バンドグループの飛び入りミニライブ、昨年から小学校低学年以下の子どもを対象に行っている「フットサル生協CUP」では6チーム、60人が各グループに分かれ、ゴールを目指しピッチを元気に走り回っていました。また、「美しい島を守る基金」としてチャリティーバザーを行い1万5000円の基金が集まりました。

今年の「協同組合まつり」は、地元「」さんの記念行事とも重なり、若い組合員さん、子どもさんの姿も多く見られ例年以上の盛り上がりで大盛況でした。

「日頃の感謝をこめて」

10月27日 竹原 生協まつり



若者のパワフルなダンス



大好評の野菜・果物コーナー

コーすけも人気！



2013/10/27

ここ数年は、あいにくの曇り空や小雨の中での開催でしたが、今年は当生協創立50年を祝うかのような晴天で、組合員とご家族およそ800名が来場されました。毎年恒例の野菜・果物・鮮魚売り場では開会と同時に込み合う盛況振りで、各ブースでも保育所・幼稚園の子供たちの描いた絵の展示を始め、コーすけのぬり絵、ガス機器の展示販売に多くの組合員が立ち止まっていました。中でも今年初めて登場したコーすけの着ぐるみでは、コーすけにじゃれつく子供たちが見せた、はじけるような笑顔が印象的でした。ステージでは太鼓演奏あり、ダンスあり、バンド演奏ありと幅広い年齢層の皆様から拍手が沸き起こり、大変楽しい一日を過ごしていただけたものと思います。

『第32回竹原生協まつり』

消費者ネット広島・国際平和デー・理事会報告

消費者ネット広島からのご案内

●ホームページを全面リニュー
ルしました

消費者ネット広島の活動や最新の消費者被害の状況について、10月よりホームページを全面リニューアルいたしました。

最新の消費者被害情報の掲載や、当法人が行った申入れ・差止事案について紹介する専用ページを新たに設けました。

●高齢者の被害防止のために「見守りねっとメルマガ」を配信中

広島県の委託事業として、高齢者の消費者被害防止を目的に、民生委員や福祉・介護関係の皆さんに、最新の消費者被害の窓口やその防ぎ方等を知っていただくために、「見守りねっ

とメルマガ」を配信しています。

(10月1日より) 消費者庁や国民生活センターなどから毎日のように「注意喚起情報」が発信されています。広島県警でも詐欺的な被害について速報やメールで紹介しています。

その中で、高齢者を対象にした事例や緊急情報についてピックアップし配信します。

メルマガ配信を希望される方は、是非ご登録ください。

※登録方法は消費者ネット広島HPで確認ください。

●弁護士等による情報収集を開始しました

不当な契約や勧誘行為、表示などによる被害の未然拡大防止のために、事業者に申入れ等を

行うことが適格消費者団体の重要な活動です。その申入れ活動は、皆さんからの情報提供がも

たになっています。

「この契約って消費者に一方的に不利な内容では」「営業担当はメルिटばかり言ってる」「この広告チラシの内容は事実と違う」など、消費者にとって不当な行為を見かけたら、情報をお寄せ下さい。

電話による情報提供を、毎週火曜日と木曜日の14時から16時まで、弁護士等の専門相談員が受け付け、対応いたします。

電話番号
082-962-6181
まで

国連が定める「国際平和デー」に参加！

国連では、毎年9月21日を「国際平和デー」と定め、世界の停戦と非暴力の日としてこの日一日、敵対行為をやめるよう呼びかけています。国連本部では、事務総長が「平和の鐘」を鳴らす記念行事を行っており、広島市も趣旨に賛同し、記念行事（広島平和文化センター主催）を平和記念公園で行い、広島県生協連も参加しました。

松井広島市長、両広島県被団協等、約30名が参加し、原爆死没者慰霊碑への献花、黙祷、平和の鐘を鳴らし、核兵器廃絶と世界恒久平和を祈念しました。

この取り組みは、全国に普及することを願います。広島県生協連としては、今後も広島市（広島平和文化センター）の取り組みに協力し、連携を大切にしていきます。

広島県生協連2013年度第3回理事会

【議事録】

■日時 2013年9月18日

(水) 13時30分～15時30分

■場所 広島県生協連

3階会議室

■出席 19名中15名出席

(理事17名中13名出席、監事

2名中2名出席)

(出席理事) 岡村、高田、難波、

馬場、岡野、横山、上田、川本、

斉藤、高橋、武田、乃美、吉山

(出席監事) 小泉、花田

(オブザーバー) 堀

□議決事項

以下の項目について資料に基づき提案説明を行い、全員異議なく承認決定した。

(第1号議案) 広島県森林審議会委員の推薦について

□協議・報告事項

各事項について資料に基づき提案説明を行い、協議の結果、全事項について確認した。

(第2号議案) 2014年度広島県への要請について

(第3号議案) 第29回中四国生協・行政合同会議報告

(第4号議案) 第42回広島県生協大会の実施要項について

(第5号議案) 地域活性化研究

会の設置と開催について

(第6号議案) 広島県における大規模災害時対応について

(第7号議案) 2013平和関連行事のまとめについて

(第8号議案) 2013年度上期事業経営状況について

(第9号議案) 中四国地連運営委員会報告

1 社会保障政策検討委員会の設置について

2 消費者教育の推進に関する基本的な方針案に関する意見

3 生協の電力事業の具体化に向けた課題と進め方について

(第10号議案) 介護の日フェスタ「広島」への協賛広告とブース出展について

(第11号議案) 「2015NP-T再検討会議」に向けた取り組み検討会(案)について

(第12号議案) 広島県協同組合連絡協議会第28回総会報告

(第13号議案) 一般報告

1 広島県食育推進会議、広島県農業関係施策審査検討会議の報告

報告

2 協同労働の取組(地域で雇用を創出するための研究会)紹介

それぞれの進水式



日々のことから

中国新聞社 論説委員室副主任

佐田尾 信作

さたお しんさく

1957年 出雲市生まれ
1980年 大阪市立大学文学部卒業。
同年から中国新聞社記者。編集委員、
文化部長を経て2012年から現職。

この夏、出雲市の実家近くで「棟上げ」の餅まきに遭遇した。エプロンもビニル袋も持ち合わせなかったが、拾うことに意義あり、だ。とにかく参戦しよう。あえて人の輪から離れたところで待ち構えていると、やがてこちらにもばらまいてくれるものだ。

広島あたりの団地の家の棟上げでは、こんな風景は見えない。そもそも、建て売りの家などはどうなのだろう。久々見た祝いの神事。そういえば、船の進水式もしばらくじかに見ていない。波止に大漁旗を掲げた漁船も、シャパンを割るような大きな貨物船も。周防大島で属島の情島と往来する郵便船を取材して以来、ご無沙汰している気がする。

因島出身のミステリー作家、湊かなえさんは進水式に格別な思いがあるに違いない。本屋大賞の受賞は「船出を祝う進水式だったのかな」。おとし、中国新聞の尾道ゆかりの作家特集でこう語っている。書き続けろよ、と送り出してもらえてありがたいと。

ことし、「望郷」で直木賞をうかがったものの、惜しくも逃した。郷里の因島とおぼしき島をめぐる連作短編集である。

造船所の進水式で見た父の傍らに、見知らぬ中学男子がいる。彼は誰。「僕」の方は連れて行ってくれなかったのに。作品の一つ、「光の航路」のシーンである。

謎はやがて解ける。教員だった亡き父は、ある事件で死を口

にした男子をこう論じていた。どんな船も大勢に祝福されて海に出た。「人間も一緒だ。とつきとお待ちわびて生まれ出た赤ん坊に願いをこめて名前をつけ、夫婦、家族、皆で喜び合い、希望を託して、広い世界に送り出す」。君という名の船はこんな



ワカメ漁が復活した宮城県気仙沼市本吉町の蔵内地区、1隻残った漁船とボランティアの支援で再起を期す。(2012年8月筆者撮影)

ところで沈んじやいけない、と。それは父の息子への遺言でもあった。読んでいて因島で宮城の漁船が新造されたという新聞記事を思い出した。津波ですべてを失った父子の再出発。「びしびし鍛えて早く一人前に」と父の漁師は言う。

昨年夏、ことし夏と、東北の被災地を旅した。石巻市の鯨缶詰の製造元「木の屋」は津波に襲われ、工場に残る缶詰はがれきの下で泥まみれになった。伝え聞いた東京・世田谷のカフェが水洗いを申し出てくれた。ボランティアによる「発掘缶」は5カ月で50万個に。保存食の元祖は耐え忍んだ。

石巻の南東、牡鹿半島には江戸期から続く捕鯨基地がある。その一つ鮎川も津波が直撃し、テーマパークは休館中だった。南極海で活躍した船やモリの砲台は健在で、日本の鯨文化を伝えるためにも再開を願うばかりだ。

それぞれの「進水式」、小さな舟にも大きな船にも幸あれ。

※湊かなえ「望郷」は文芸春秋刊
1470円。